



財団法人 **京都府国際センター**
Kyoto Prefectural International Center

NEWS

Vol.57 2011年冬号

1 国際情勢講演会
新理事長就任のお知らせ

【世界】の街角

ベラルーシ共和国 **ミンスク**

2 京都ゆかりの日本名作映画紹介

3 日本語支援ボランティア研修会

4 ベトナム・バンブーコンサート

5 第5回京都留学生体育祭

外国籍府民サポーター研修

6 日本語を母語としない保護者への支援

JICA 海外ボランティアの現場から

京都府国際センターからのお知らせ

外国籍府民向け生活相談

活動報告 **1** 平成22年11月20日(土)

参加者160名

国際情勢講演会 「日本の外交政策におけるロシアの意義」

舞鶴市において、外務省および舞鶴市との共催による国際情勢講演会を開催しました。

元外務事務次官の谷内正太郎先生を講師に迎え、北方領土への初の大統領訪問等で、昨今、話題となっているロシアとの外交を中心とした国際情勢についてお話をしていただきました。谷内先生は、豊かな外交官経験を踏まえ、時としてルールが守られない国際関係の厳しい現実について具体例を挙げて説明されました。

講演後には、当センター理事でもある須藤真志京都産業大学名誉教授のコーディネートにより、ロシア研究の第一人者である木村汎北海道大学名誉教授、国際日本文化研究センター名誉教授と谷内先生の対談が行われました。木村先生からは、プーチン首相が絶大な影響力を持っているロシアの政治の現状について、わかりやすい解説をしていただきました。

1961年(昭和36年)、舞鶴市は、日本と当時のソビエト連邦(現ロシア連邦)の間で初めてとなる歴史的な姉妹都市提携をナホトカ市との間で締結しました。来年は、その友好提携50周年を迎える節目の年で、地元の関心は高く、約160名の府民に参加いただくことができました。アンケート結果から、解りやすい講師の説明と中身の濃い対談に対する参加者の満足度の高さを伺うことができ、他にも好意的な意見をたくさんいただきました。



新理事長就任のお知らせ

平成22年12月20日、(財)京都府国際センター平成22年度臨時理事会が開催され、故西島安則理事長の後任に尾池和夫氏((財)国際高等研究所所長(元京都大学総長))が選出されました。尾池理事長は、地震学が専門で2003年から2008年まで京都大学総長を務められました。就任に当たり、「設立以来、センターの発展に多大な貢献をされてきた故西島理事長の後任は、身の引き締まる思い。更なる飛躍を目指して尽力したい。」とコメントされました。



世界|の|街|角|

ミンスク(ベラルーシ共和国)



ABRAHIMOVICH Yuliya
アブラヒモビッチ・ユリヤさん

私が生まれ育った街はミンスクです。ヨーロッパの中心であると言われるベラルーシ共和国の首都です。国の中央部に位置し、人口は約183万人(2010年現在)です。ミンスクはベラルーシの第一の都市で、ベラルーシ人の6人に1人がミンスクに住んでいます。



京都市を流れる鴨川のように、スヴィスラチという川がミンスクを貫流し、その川の両岸に街が広がっています。川沿いに公園、レストランやカフェ、そして、観光客で賑わうトロイツコエ・ブレドメスチエという旧市街があります。

ミンスクには古い正教会とカトリック教会がたくさんあります。一番有名なのはミンスクのシンボルである聖霊主教座聖堂と聖シモン・ヘレナ聖堂です。その他、近年に建てられた新しい教会をあちこちで見かけることができます。

ミンスクは伝統と現代が見事に調和した独自の歴史を持つ街です。清楚で広々とした通り、緑に囲まれた公園、そしてあたたかい市民のもてなしの心が、居心地の良さや安らぎを生み出しています。



ミンスクの街は、少しずつではありますが、街の歴史を共に創り上げていく人々を迎え入れながら、ミンスクという生きた書物に新たなページを加えています。ミンスクの街は、この地を訪れる人々に、「ようこそ!」と語りかけています。また、美しい街の風景や優美で整備された建築物を眺める人々に、「あなたの心に温もりと喜びを!」と語りかけています。

伝統と近代が融合する、鮮明で独特なスラヴの心を持つ欧州の街、ミンスクを訪ねると、きっと心に調和するものが見つかるでしょう。果てしない青い空について語ると、心地よいメロディーが心に響くでしょう。夕焼けを眺めながら、あるいは朝の清々しい空気を呼吸しながら、あるいは慌しい平日に、あるいは土曜の夕方に心地よいカフェで寛ぎながら、ミンスクのリズムを感じてください。



平成22年9月11日(土)・10月8日(金)・11月26日(金)

参加者136名

京都ゆかりの 日本名作映画紹介

9月11日(土) 「羅生門」 監督:黒澤明
10月8日(金) 「宗方姉妹」 監督:小津安二郎
11月26日(金) 「古都」 監督:中村登

外国籍府民を主な対象に、日本文化への理解を深め、日本研究・知的交流の促進を図るために、京都にゆかりのある日本映画の英語字幕付き上映と、映画の舞台、時代背景等の解説、感想を述べ合う会を併せて国際交流基金京都支部との共催で実施しました。

国際交流員(CIR)が、英語と日本語で、パワーポイントを使ったわかりやすい作品解説と感想を述べ合う会のコーディネートを行いました。参加者は延べ136名(うち外国籍府民は25カ国以上107名)にのぼり、アンケート結果では、「満足-97%」、「有意義-98%」と留学生を始め外国籍府民の満足度は高く、「映画のみならず、日本の歴史や京都についても学ぶことができた」などの感想も聞かれ、好評を頂きました。



平成22年11月28日(日)

参加者36名

日本語支援 ボランティア研修会(福知山市)

福知山市において、府北部地域で活動する日本語ボランティアを対象にした研修会を実施しました。府北部のように外国籍府民が点在している地域では、日本語教室が外国籍府民の交流の場となっているため支援ボランティアの育成とネットワーク化が求められています。6月から始まり今回で最終回を迎えた研修会北部シリーズは、京丹後市、綾部市、福知山市の3市が協働で開催する初めての試みとなりました。

京都日本語教育センターの竹見公仁子先生と京都教育大学の浜田麻里先生を講師に迎え、教材作成のヒントと自動詞・他動詞の教え方を紹介頂きました。

地理的な問題で交流する機会がなかった北部の日本語教室同士が、この研修会で一堂に会し、スキルアップとともにネットワーク形成の契機となったのではないかと思います。



平成22年10月5日(火)

参加者150名

ベトナム・バンブーコンサート

在大阪ベトナム社会主義共和国総領事館、龍谷大学との協働で、「ベトナム・バンブーコンサート」を開催しました。出演はチェ・ヴィエット・ファミリーバンド。

ベトナムはもちろん、国外でも活躍されているベトナムを代表する楽団のひとつです。



楽器は竹や石を用いた素朴なものでしたが、その音色の多様さ、迫力、演奏技術の高さ、プログラム構成の素晴らしさについては申し分なく、鳥肌が立つほど感動しました。曲目は、ベトナムの民謡からモーツァルトの「トルコ行進曲」など西洋音楽のほか、日本の童謡など馴染みの曲も演奏され、観客の中には涙を流している方もおられたようです。演奏の合間のベトナム伝統舞踊も、大変美しく完成度が高く、見とれるほどでした。

演奏終了後の「交流」の時間には、来場者の皆さんは楽団員と記念撮影をしたり、楽器に触ったりしておられました。音色が日本の伝統楽器によく似ているので「ベトナムにより親近感を持った」という感想も聞かれ、「機会があれば、もう一度聴いてみたい」という方もたくさんおられました。



平成22年11月14日(日)

参加者400名

第5回 京都留学生 体育祭

長岡京市内において、第5回京都留学生体育祭を京都留学生体育祭実行委員会と共催で実施しました。



京都府が進めている留学生倍増施策を側面から支援するために、府国際センターでは、京都の留学生と協働してスポーツを通じて、留学生と日本人学生を始めとする府民が交流し、国籍や文化の違いを超えて相互理解を深めることを目的として、開催したものです。当体育祭は平成18年12月の第1回開催以来、毎年開催しており、今年も多くの留学生等が、バスケットボール、サッカー、テニス、綱引きの競技を楽しみました。

今回は第5回という節目の年に当たることから、(財)京都府国際センターより優勝旗とメダルを、府内の大学対抗綱引きの優勝団体である京都大学に授与しました。京都府知事や在大阪中華人民共和国領事にも、ご挨拶頂くとともに、競技を観戦して頂き、その模様は中国の通信社である新華社を通じて、中国で大きく報道されました。



平成22年11月21日(日)

参加者43名

外国籍府民サポーター研修 日本語を母語としない保護者への支援

外国人支援者を対象に、渡日・帰国青少年(児童・生徒)のための京都連絡会(ときめき)との共催で、研修を行いました。保護者支援に焦点を当てた研修は府国際センターとしては初めてでしたが、福知山市や綾部市など府北部地域からの参加もあり、また学校教員、日本語ボランティア、通訳、カウンセラーなど参加者の支援分野も多岐にわたりました。

日本語が母語でない保護者においては、言葉や文化・習慣の違いから、日本での子育てに戸惑いを感じられる方も多く、例えば、漢字が読めないために、学校からのおたよりに何が書いてあるかわからない、宗教上の理由から子どもの食べられない物が給食に出されるということなどがあるようです。

前半は、日本で子育て経験のあるインドネシア出身の保護者の方と高校の先生から、日本で子育てする場合に直面する問題についてお話を伺い、後半は、参加者の経験や前半の講演をもとに、課題、解決策について、グループに分かれて話し合いました。

法律や制度に関する課題もありますが、近くにいる日本人が必要な情報や習慣の違いを伝えることで解決するケースもあり、私達自身が、地域住民として身近な問題として考え行動していくことが必要であると感じました。



海外ボランティアの現場から

田中 博崇

20年度2次隊

2008年9月~2010年9月

派遣国/タンザニア連合共和国

職種/村落開発普及員

アフリカ東海岸に位置するタンザニア。事実上の首都ダルエスサラームから長距離バスに揺られること8時間、窓から見える色が緑から赤に変わるところ、私の活動任地となる法律上の首都ドドマが現れる。

日本で通訳者として働いた後、ドドマへ村落開発普及員として派遣され、村落住民による森林伐採の問題に取り組むために緑化啓蒙活動を推進するという活動に従事した。しかし、実際に村落巡回を行うと、森の木を切らなければ生活できない彼等の現実と直面した。また飲み水や生活に使用する水は雨期には川であった場所をスコップで掘り返して得る泥水であり、決して衛生的ではない状況を目の当たりにした。この状況で、自分が今優先的にすべき活動は何なのかを考える日々が続いた。



その後、モリンガ*という多目的樹木と出会い、村落住民にその利用価値をセミナーや巡回で説明し、最終的には健康食品ならびに水浄化ができる優れたものだという情報がドドマ中に浸透していった。計画を立てて仕事に取り組む習慣がなく、またこれまでの衛生状況下で生きてきて慣れているというマインドセットを持つ村での意識改革は決して容易ではなかったが、数年後に再度、ドドマに戻った時、自分達自身で自主的にモリンガを有効利用していた意味があったと言えるのではないだろうか。彼等自身が最終的に選択したものこそが持続的発展に繋がると信じながら、次の訪問を楽しみにしている。そして苦境の中での彼等の笑顔が持つ意味を皆に伝えていきたい。



*アフリカや東南アジア等の亜熱帯に生息するワサビ科の植物で葉や果実には素晴らしい栄養素が含まれ、種は水浄化作用を持ち、高澱油も採取可能な多目的樹林

◀モリンガの木



京都府国際センターからのお知らせ

1 多言語による日本の学校生活ガイダンス

日時 平成23年1月23日(日) 14:30~17:30
場所 京都府国際センター会議室
対象 日本語が母語でない保護者。子どもと一緒に参加できます。(保育園、幼稚園、小学校、中学校の子どもをもつ保護者)
定員 30名(要申込み)
参加費 無料

HPに多言語版(英語、中国語、韓国・朝鮮語、タガログ語、スペイン語、ポルトガル語)が掲載されています。

内容

第1部 説明会(小学校・中学校の説明を中心に)
 就学ガイドブック(文部科学省作成)をもとに、追加情報とDVDの映像を交えながら以下の項目について説明をします。
 ①学校教育 ②就学手続き ③学校生活 ④教育相談

第2部 グループ別相談
 ※第1部と第2部は通訳がつきますが、言語によっては、準備できない場合もあります。
 ※おたより袋などの学校関連グッズがもらえます。

2 国際理解講座「魅惑のフランス」

日時 平成23年 ①2月12日 ②19日 ③26日 ④3月5日(毎週土曜日) 15:00~17:00
 レセプション 17:30~ ※レセプションは3月5日のみ
場所 ①②③ 京都府国際センター会議室 ④ 関西日仏学館(京都市左京区)
定員 ①②③ 50名 ④ 70名(要申込み)
参加費 500円/回(賛助会員200円/回) 1,500円/4回(賛助会員600円/4回) レセプション 3,000円

内容

国際化に関わる問題について、有識者を招き、府民の皆様に分かりやすく解説します。昨年度、京都に総領事館が移転され、交流の機運が高まるフランスをとりあげます。

ご不明な点がございましたら、当センターまでお問合せ下さい。

問合せ・申込みは **TEL. 075-342-5000**
 E-mail main@kpic.or.jp

Web <http://www.kpic.or.jp/> **GO**

外国籍府民向け生活相談

外国籍府民生活相談窓口

- ◆相談開設日…… 月曜日/英語
 水曜日/スペイン語、ポルトガル語
 木曜日/タガログ語
 金曜日/中国語
 土曜日/韓国・朝鮮語
- ◆相談時間/午後1時~午後5時
- ◆相談専用電話(秘密は守ります。無料)

Tel:075-342-0088 Fax:075-342-5050

Q

母国の運転免許証を持っていますが、日本で運転することは出来ますか?

A

あなたの運転免許証が有効であり、取得した日から3ヶ月以上母国に滞在したことが証明出来れば、日本の免許証に切り替えることが出来ます。必要書類を揃え、京都府運転免許試験場(075-631-5181)で、適性検査、学科、技能試験を受ける必要があります。(審査が免除される国があります) 詳細は、京都府運転免許試験場

☞ <http://www.pref.kyoto.jp/fukei/menkyo/shomu/access/index.html>
 ☞ CLAIRクレア <http://www.clair.or.jp/tagengorev/ja/n/index.html>

京都府国際センター 印紙証紙販売コーナー

海外へ!
 最初の一步は
 このドアから...



これから掃りに出かけたなら、今日の受付が終わってしまう。

パスポート用の写真を忘れてしまった!

そんなときは...

営業時間も旅券事務所に合わせて、とても便利!!

京都駅ビル8階の京都府旅券事務所の隣にあるのが、京都府国際センターの「印紙証紙販売コーナー」。

印紙・証紙の販売のほか、パスポート用の写真撮影も行っています。

営業時間 月・水・金・日 / 9:00~16:30 火・木 / 9:00~19:00
 (写真撮影は月~金の9:00~16:30)

賛助会員募集のお願い

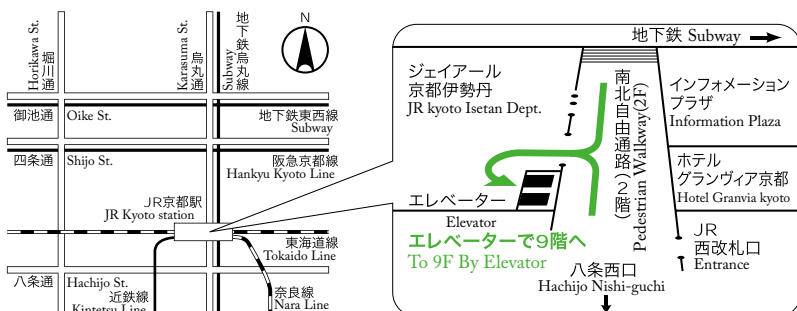
京都府国際センターの活動をサポートしていただける賛助会員を募集しています。数々の特典も用意しております。

- 加入資格** センターの活動趣旨に賛同していただける個人、団体等
- 会費** 個人会員/1口 年額3,000円 団体会員/1口 年額10,000円
- 加入方法** センター受付窓口または電話、メール等で入会申込書をご請求ください。
- 特典**
 - ◆センター発行の定期刊行物、パンフレット等の提供
 - ◆センター主催の主な行事の先行案内
 - ◆センター主催の特定有料行事の割引
 - ◆センター会議室使用料の割引(団体会員のみ)
 - ◆指定レストランでの5%割引
 - ◆提携DCゴールドカードへの加入(カード会費免除) 他

寄付金のお願い

京都府国際センターが行っている様々な事業は、皆様からの寄付金が貴重な財源となっております。更なる国際交流事業や多文化共生事業の展開にご理解、ご賛同をいただき、寄付金へのご協力をよろしくお願い致します。

なお、当センターは京都府から特定公益増進法人の認定を受けております。特定公益増進法人への寄付金につきましては、法人税や所得税の優遇措置があります。詳しくは当センターまでお問い合わせください。



財団法人 京都府国際センター

〒600-8216 京都市下京区烏丸通塩小路下ル 京都駅ビル9階 (南北自由通路駅ビル南エレベーター利用)

Tel : 075-342-5000

Fax : 075-342-5050

E-mail: main@kpic.or.jp

<http://www.kpic.or.jp/>

開館時間/午前10時~午後6時

休館日/毎月第2・第4火曜日、年末年始(12/29~1/3)